

《Lesson 1》肯定文に続く付加疑問文

《付加疑問文とは》

(1) 「～ですよね」「～でしょ」と訳される言い方。

<例> あなたは大学生なのですよ。 / 彼女はピアノが弾けるのでしょ。

(2) 相手に同意を求めたり確認したりする際に使われる。

(3) 肯定文の付加疑問文では、肯定文の最後に

「カンマ」 + 「否定の短縮の疑問形 (isn't he? / can't you? など)」

を足せば完成。

肯定文, + 否定の短縮の疑問形？

(～ですよね / ～でしょ)

<例> He is a student, **isn't he?** (彼は学生なのですよね)
You can play the guitar, **can't you?** (あなたはギターが弾けるのでしょ)

ポイント！ 否定の短縮形は、肯定文の種類に合わせる

“He is ~.” (He の be動詞の現在形) の文であれば、否定の短縮形も isn't he? (He のbe動詞の現在形) となるので、間違えないように注意しましょう。

<例> He is a student, doesn't he? = ×
You can play the guitar, aren't you? = ×

【肯定文に続く付加疑問文：作り方】

ステップ①：「～ですよね」「～でしょ」の部分を除いた文を作る。

ステップ②：文の最後をカンマにし、否定の短縮の疑問形を足す。

<例1> 「彼は学生なのですよね」

ステップ①：「～ですよね」「～でしょ」の部分を除いた文を作る。

「彼は学生です」

_____ He is a student.

ステップ②：文の最後をカンマにし、否定の短縮の疑問形を足す。

_____ He is a student, isn't he?

<例2> 「あなたはギターが弾けるでしょ」

ステップ①：「～ですよね」「～でしょ」の部分を除いた文を作る。

「あなたはギターが弾けます」

You can play the guitar.

ステップ②：文の最後をカンマにし、否定の短縮の疑問形を足す。

You can play the guitar, **can't you?**

ポイント！短縮の疑問形の発音の仕方

一般的に、短縮の疑問形の一部を上がり調子できくと「（確か）～ですよね」といった「答えを確認する質問」のニュアンスが含まれ、短縮の疑問形の一部を下がり調で聞くと「～でしょ」といった「念を押す」ニュアンスが含まれます。

<例> 上がり調子での He is a student, **isn't he?**

→ ニュアンス：「確か、彼は働いていなくて、学生なんですよね？」など

下がり調子での He is a student, **isn't he?**

→ ニュアンス：「彼はいつも授業にいるから学生でしょ？」など

ポイント！“I am ~.” の文の場合は、amn't I? / am not I? にはならない

“I am ~.” の場合、基本的に“aren't I?” の形が使われます（もう一つ“am I not?” という言い方もあるのですが、こちらは改まった言い方なので、あまり使われません）。

<例> 私がリーダーなのですよね。

I am the leader, **aren't I?**

I am the leader, **am I not?** （あまり使われない）